

第6回 仕事と学校

バンクーバー市は、北緯 49.2 度 西経 123 度の地点にあります。東京は、北緯 35.5 度 東経 140 度です。ですから、バンクーバーと日本を比べますと、北緯では北海道より北の樺太の真ん中付近です。同様に、ヨーロッパの都市と比べましたら、ロンドンが北緯 51.5 度に位置しています。バンクーバーと日本との時差は標準時間で 17 時間、日本が進んでいます。ロンドンとは 8 時間違い、ほぼ、均等に 3 つに割った感じです。また、カナダの東と西では、時差が 4 時間半あります。広大です。

ところで、最近のお話ですが、古希を迎えて色々と人生観が変化して来ています。その大きな要因は、やはり加齢でしょうか。年を取れば取るなりに、若い時のように身体がスムーズに動かす事が出来なくなって来ています。また、食べ物についても、若い頃のように大食は出来ず、それこそ『年老いて退職したのに、大食できず！』とでも言いませうか、そんな感じの毎日です。

さて、話を昔に戻しましょう。バンクーバーでの最初の一年間は、アツと言う間に過ぎた感じです。何しろ、見るもの聞くもの全てに渡って新しい事、新しい経験ばかりでしたので、毎日がチャレンジの連続でした。ですから、気持ちに余裕がありませんでした。とにかく、カナダの社会に慣れなければなりません。まずは、最初に職を得た造船所での事から書きましょう。

仕事の内容は、現場での船の溶接です。勿論、溶接と言いましても色々とレベルがあり、まずは、一番やさしいフラット溶接からでした。船の床を補強するためアングル鋼を取り付けて、それを溶接します。この場合、フレット溶接（日本では、すみ肉溶接）となり、溶接断面が三角形になります。一応、父の会社で同じような事をしていましたので、そのままスナリ合格でした。最初の 3 日間は、朝早く起きてバスに 30 分程揺られて、会社の近くのバス停で降り、そこから 10 分程歩きました。しかし、直ぐに、同じ方向へ通う同僚から声をかけられ、行き帰りに乗せてもらう事になりました。

それは、Car pool と呼ばれていて、長距離でしたらそれぞれ交代で車を出し合ってガソリン代を節約する一つの知恵でした。それから、当時、こちらでは公共交通はバス便だけでした。こちらのバス料金は時間制で、1 時間半以内であれば、25 セント位だったと思います。当時の為替で 80 円程度でした。それは、東京とあまり変わりませんでした。現在では大人 2 ドル 75 セント、為替変動がありますが、約 250 円程度の感じです。しかしながら、システムとして、時間内なら乗り降りが何回も出来るのです。勿論、その頃は運転手さんに、乗る時、トランスファーの切符をもらいました。乗り継ぎをするためです。

ある時、乗っていたバスがバス停に止まったのですが、バスの運転手さんが外に出て行ってなくなったのです。何があったのかと思って、しばらく待っていましたら、何とコーヒーカップを持って戻って来たのです。本当にノンビリしていました。

今は、スカイトレーンという電車がありますので、少し、ややこしいシステムになっていますが、殆どがコンピューターシステムに代わっています。

ところで、いつも車に乗せてくれた人は、30 歳代後半の気のいいイギリス人でした。3 ヶ月間ほど乗せてもらい、最後にお礼としてガソリン代を払おうとしましたが、彼は受け取りませんでした。ですから、その後、こちらのチョコレートクッキーを彼の子供さんへ贈りました。また、会社では私が彼の相棒となり、二人で一緒に組み立て仕事をすることもありました。で、会話は、どうだったかと言いますと、それ

が、無理なく通じていたのです。仕事の上で、彼が私に何を要求しているかは、言葉に出さなくても直ぐに判りました。それは、お互いに仕事の進め方を知っていたからだと思います。勿論、いつも彼と組むと言う訳ではなく別な人とも組みました。

その造船所には、総勢で180人ほどの人が働いていましたが、3ヶ月もするとかなり慣れて来ました。何しろ、週5日の労働です。毎週土曜と日曜日はお休みですからね。日本で働いていた時の労働と比べると、もう天国にいるような感じでした。それに、2週間毎の金曜日が給料日でした。その時は、明細書と小切手を現場のボスからもらいました。

また、バンクーバーの冬は九州育ちの私にとりましては、夜が長くて、雨や雪が多くて、街全体がどこことなく暗く、活気が無く、その上、その年の冬は例年になく大雪との事でした。ですから、流石、ここは、北国 カナダ！！ と思いました。でもその内、段々と日系人と知り合うようになり、横浜で一緒にセミナーを受けた仲間達もバンクーバーに来ていました。下宿では、若いカナダ人、イギリス人、フランス人と一緒に暮らし、週末は日本人が集まる場所へと行っていました。また、毎週の月曜日の夜、最初に泊まった YMCA の一室で、日系教会の牧師さんがボランティアで新しくカナダに来た若い日本人のために会合を開いていました。そこから、ドンドン知り合いの輪が広がり、時々教会に行く事もあり、そこでも新しい友達が出来ました。で、教会で知り合ったカナダ生まれの日系人女性の家に伺った事があります。その日は、1月の下旬でしたか、バスに揺られて乗り継いで1時間ほどかかって着きました。その時の気温はマイナス15度です。厚着していませんでしたので、それこそ、肺の中まで凍ったと感ずくくらいの寒さでした。そう言えば、会社で外に置いてあった大きな防火用ドラム缶の水が、丸々凍っていました。流石にこれには、ビックリでした。また、公園の池が凍ってスケートもしていました。ところが最近では、やはり温暖化が進んだのでしょうか、そういう事は見かけなくなりました。でも、後年、外気の気温がマイナス30度の中を歩いた経験をした事もあります。

さて、カナダに移住してから6ヶ月、季節は秋から冬を通り越して春になっていました。春には、冬の標準時間から夏時間へと変わる日があります。その夏時間になった日から、どっと春が来たのを感じました。夏時間とは、標準時間を1時間早めるのです。正確に言いますと、3月の下旬の日曜日、午前2時を3時にするのです。ですから、その日は一日が24時間ではなく、1時間少ない23時間しかないのです。そして、10月の下旬、今度は、逆に午前2時を午前1時に戻すのです。ですから、その日は25時間となるのです。YMCA に泊まって一週間後、ランチを食べるために街のレストランに行きますと、午後1時だと思っていたのに、何と、その時計は正午を指しているのです、ウエートレスさんに、あの時計1時間早いと話すと、逆に、あんた知らないの、今日から夏時間から冬の標準時間に戻ったのよ！ と、教えてくれました。それが、最初の体験でした。いや～、面白い事をするのですね。夏時間は、『Day Light Saving』と呼ばれています。

さて、3月の中旬からは、私は車を購入していました。カナダに来てから5ヶ月目です。週末は、友達と一緒にドライブを楽しみました。何しろ、花が一斉に咲き乱れるのです。スノードロップ、クロッカス、黄色い水仙、うめ、もも、色とりどりのチューリップ、日本のさくら、つつじ、石楠花、シャクヤク、藤の花、バラの花、ライラック、マーガレット、スマイルの花などなど、それは、それは、見事な光景です。その上、陽の長さが日に日に長くなり、夏至には夜の10時半頃まで外で新聞が読めるくらい明るいのです。九州育ちの私にとって、北海道の春は花が一斉に咲くと聞いていましたが、どんな感じかと想像していました。それ以上の北国の春を、バンクーバーで経験したのです。48年も住んでいる今でも、春の花の

時期はもう最高だと感じています。バンクーバーは春から夏にかけての気候はとても素晴らしく、日本では経験できないお天気です。気温はそんなに高くなく、空気はカラッとしていて、いくら暑いと言っても、日陰に入れば、スーッと涼しくなるのです。また、花の季節、青い空、そして、緑の芝生など 最高です。（しかしながら、最近、昔と比べて各家庭での芝生の手入れが少ないのと、散水制限のため、緑の芝生は少なくなって来ています。）

また、バンクーバーは海と山とに囲まれていますので、街の近くに大自然が横たわっている感じです。車を買ってからはお天気が良ければ、もう色々な所へ出かけました。

でも、そんなに遊んでばかりはいられません。何とかして上を目指そうとして、こちらの学校へ行く事にしました。それまでも、カナダ政府の援助で格安で夜間英会話教室に通っていましたが、それよりも、こちらで資格がとれるコースを探したのです。そして、来てから8ヶ月後、まずは、職業学校へ行く事にしました。そして、現場の仕事からオフィスワークに行きたいと思いました。そこで、見つけたのが職業学校にある建設鉄鋼の製図工のコースです。受講するために願書を提出して1週間後、6月の頃でしたか、個人的にテストを受けました。受講資格は、高卒である事と、簡単な筆記試験、それに面接試験でした。で、簡単に合格したのです。でも、授業は朝8時半から午後の3時半までです。昼休みは1時間ありました。ここで、困ったのが仕事をどうするかという事でした。そこで、直接、工場長と会って、仕事のシフトを午前の始まりから、午後の始まりのシフト、つまり夜勤への変更を願い出ました。その理由を話しますと、工場長は快く許可を下さいました。そして、夜勤へのシフトに変更出来たのです。でも、まだ、問題がありました。それは、学校を3時半に終えて、会社へ3時半から出る事は不可能な事だったからです。そこで、もう一つ、私だけは5時から仕事に入れる事をお願いしたのです。つまり、毎日1時間半の遅刻です。それも、スコットランド出身の50歳代の工場長は快く承諾してくれたのです。ありがたい事でした。本当に感謝しました。

クラスは、8月上旬から始まりました。

多分、若かったから、学校と、仕事の両立が出来たのでしょう。とにかく、背骨に傷を持っていましたので、小さな身体での肉体労働はかなりキツイ毎日でした。でも、その後、思いもよらない事故が、学校生活に入る1ヶ月半前に起きたのでした。

---- 次回へ ----